Bグループ（鷺沼駅周辺の文化・交流・コミュニティ機能・子ども・子育て機能・行政サービス・相談機能）

凡例：キャッチフレーズ／第4回での意見／第3回での意見／第2回までの意見の整理（貼られたシール）／一番シール／重要シール

ベッドタウンから生活する街へ　皆がずっと住みたい、毎日楽しいさぎぬま

ベッドタウンから生活のある街へ　一日過ごせる　皆がずっと住みたい街　毎日楽しいさぎぬま

●安心感とクオリティが確保された駅前
●生活を後押しする
・働く場
・集う場
・学ぶ場　がある
→ 皆が10年後の夢を生み出せる空間・場 → ダイバーシティ

1. 内容
鷺沼駅周辺再編整備を踏まえ、駅周辺に求めるもの

2. 解決の方向
求められる機能の内容・空間のあり方

3. こだわりのポイント
配慮すべき点や、鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応

4. 実現に向けた方向性
今後のプロセス・役割分担など

【交流・文化・コミュニティ】

働く場

- 利便性の高いところに”働く”場を設けることでまちを活性化させる
- 多様な人々が使うシェア、ワーキングスペース（空間、道具、コラボレーションをシェアする）
- 昼間人口を増やすどうやったら鷺沼で昼間楽しく1日すごせる →ボーッと出来る場所がない
- 再開発ビルの中にレンタルオフィスを作ってもらう
- さぎぬまで働く さぎぬまでお金を使う
- 非常に混雑の激しい田園都市線に乗らなくとも働けるさぎぬま
- 市民活動は収入につながりにくい
- 昼間に活動できる場を作る
- 駅前に（川崎市民用の）ワーキングスペースをつくる
- 再開発ビルの中にレンタルオフィスを作ってもらう
- 個人が自分の才能を活かせる場
- サテライトオフィス（個人が使いやすい）
- シェアオフィス
- 企業とは違う、個人の場
- レンタルオフィス ・様々な広さ（値段も変わる） ・気軽に借りられる ・仕切られている
- 事務所だけでは足りない 色々楽しめるよう公園・休めるスペース等があるとよい ボーッとすごす
- 賑わいが生まれるワーキングスペースとする
- 利用者同士が交流や親睦ができたり、コラボできるようなワーキングスペースとする
- →ワーキングスペースをつくることにより、宮前区がさまざまな人材が集まるようにする
- →民間シェアオフィスの活用
- 多世代が共有する（家族や個人ではできないこと）
- 子育て中の人が使いやすい
- 時間、場所を自由に選べる働き方（将来の働き方）
- シェアの実現法 →どうしたら活動を共有できるのか？
- 根拠 →なぜそれが欲しいのか・必要だと思うのか
- フリースペースは管理が大変ではないか →NPOと連携した運営 →登録制にする
- もっと具体的な検討

市民活動

- 多くの人が集まる駅前に、子どもや若者、高齢者が安心して気軽に来られ、時間を過ごせるスペースをつくるに来られ、時間を過ごせるスペースをつくる
- 利便性が高く、使いやすい場所に団体同士の交流ができる機能があると活動が活性化する
- ちょっと話せる場所がない →ちょっとした打ち合わせなどができるスペースが適当 →鷺沼にあれば便利
- 1日過ごせる →様々な過ごし方があるので、機能が色々あるとよい
- →ミシン、キッチン、ピアノ、工具など機能のあるスペース
- ・工具がある ・知恵 ・コーディネーター ・ノウハウが集積されているとよい。支援体制整備
- →市民活動センターの小規模版かつ登録等も不要なスペースがあると便利
- 市民団体情報の蓄積が重要
- オープンスペースはフリーに。閉鎖空間は登録した区民に →安全が確保できる

多世代

- 使い方を利用者が選べるスペース
- 人材、アイディア、クオリティが集まる空間
- 気軽に使える場所（ずっといてもきがねしない）
- 小さいお子さんも連れてこれる座敷が欲しい
- テーブルと椅子も欲しい（足の悪い高齢者等のために）
- 出かけることで寝たきり防止
- ・小グループでも使いやすい部屋 音漏れしない部屋があると色々な輪が広がる

図書館

- 大人と子どもで機能をわけることが必要
- 調べる（本、資料）・読む（新聞・雑誌）、聞く（読み聞かせ）、勉強する（ミニ講座）のある図書館
- 世代別のニーズに合わせた図書館機能を整備する
- 本に出会う（活字）最後の場が図書館だと感じる
- お茶を飲みながら本を読むなど、豊かな時間を過ごせる
- グランツリー武蔵小杉（民間）＋中原図書館　子どもが遊べて本がある。鷺沼に欲しい
- 大人も子どもも居心地が良い図書館機能とする
- →大人と子供のスペースを分ける
- →子どもには、読み聞かせ、お話し会等ゆっくりと時間を気にせず過ごせる場所とする
- クローズしている空間とオープンな空間を織り交ぜると大人・小人の両方が使いやすい
- ブランド化 →具体的には？

集う場

- ホール（現在） ・行きにくい（坂） ・音響がわるい ・構造上問題がある（駐車場からのアクセスがわかりにくい）
- スペースに限りがある →既存の低・未利用施設と連携
- 駅前に音楽の発表や練習ができる音響がしっかりしたスペースをつくる
- 音響を完備した多目的ホールとする
- 大きな音が出せる（太鼓、エレキでも）
- →・大ホール・小ホールがある ・駅から近い ・わかりやすい配置計画 ・ギャラリー・会議室もあるとよい ・音響もよく
- 一方的に聴くだけではなく、自分が演じられる、主体的に使える音楽ホール
- 練習できる場所

【子ども・子育て】

- 知育的な遊具のある遊び場（便利なところに屋内で雨の日も遊べる
- 地域子育て支援センターさぎぬまは、利用者が減っているので連携して使えないか。
- 親にとっての利便性の高さと、子どもにとっての環境を考えた終日保育への対応が必要
- 一時保育等への対応が必要
- 幅広い選択肢で。無理なく楽しい理想の子育て
- 子どもの遊べる場所 ・床が柔らかい ・小さな遊具 ・親が買い物のついでに連れていける ・雨の日にも安心して遊べる場所
- 駅の近くに子供の一時預かり（保育室・学童保育）
- 駅前に乳幼児が利用できる子育て支援センター
- →駅前に保育園の送迎ステーションを作る
- 送迎ステーションはいいが、園の先生と保護者が毎日顔を合わせなくなる（という課題がある）
- 親にとっての利便性だけでなく、子供にとっての環境（静かさなど）を確保する
- 園の質の確保
- 保育園は必ずしも駅に近い必要はない →駅から保育園への送迎機能があるとよい

※行政サービスについては、議論しない